

第4回
千曲市林業振興協議会

平成23年1月25日(火)

13時32分～16時39分

更埴庁舎 講堂

平成23年1月 第4回千曲市林業振興会協議会

千曲市林業振興協議会出席委員

長野森林組合	更埴支所長	春日	賢一
NPO 法人千曲の森	理事長	唐澤	伊和男
区長会連合会更埴支部	志川区長	関口	幸男
" 戸倉支部	羽尾第4区区長	塚田	勝壽
" 上山田支部	漆原自治会長	小平	三幸
財産区議員	財産区副議長	宮坂	正義
ちくま農業協同組合	営農部長	北村	延隆
鳥獣保護委員		杉本	一三
長野地方事務所	林務課長	徳原	敏昭
千曲市環境市民会議	代表	幸野	耿
千曲市建設業協会	理事	本保	雅規
みどりの少年団育成会	更級小学校長	伊藤	可主也
一般公募		飯島	美智子
一般公募		宮本	眞知子

出席職員

経済部長	柳澤	正彦	長野地方事務所	林務課	鷺野さん
農林課長	平林	修	"		高野さん
森林整備係長	小林	千春			
森林整備係	小松	功和			
"	柳町	恵子			

《会議の経過》

1. 開 会

平林農林課長 本日はお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。
第4回千曲市林業振興協議会を開催いたします。
私、進行を努めさせていただきます農林課長の平林と申します。よろしく
お願いします。

2. 委嘱について

平林農林課長 委嘱でございますが、長野森林組合更埴支所長さんが、寺澤委員から春
日委員へ変更となりましたのでよろしくお願い致します。
委嘱につきましては、委員名簿への登載により委嘱状に代えさせていただ
きたいと存じますのでよろしくお願い致します。
それでは、唐澤会長さんからご挨拶をお願いします。

3. 会長あいさつ

唐澤会長 大変ご苦勞様です。本日の協議内容につきましては、松くい虫対策につ
いてが議題となっておりますのでよろしくお願い致します。

平林農林課長 ありがとうございます。事務局より本日の日程の説明を申し上げます。

小林係長 ご苦勞様です。森林整備係の小林です。よろしくお願い致します。本日の
日程ですが現地視察を予定しております。前回は川西地区、大池方面を見
学していただきましたので、今回は川東地区、倉科方面の松くい虫の状況
と各事業の紹介をさせていただきます。
その後、ビデオをご覧いただき、協議事項に入らせていただきますので
よろしくお願い致します。

4. 現地視察研修

平林農林課長 ありがとうございます。現地視察を行いますので移動をお願いします。

(現地視察・ビデオ鑑賞 13:36～14:53)

5. 協議事項

平林農林課長 引き続きまして協議会を再開いたします。これから協議事項に入ってま
いりますが、議長につきましては当協議会の規約によりまして会長が議長

になっていただきますので唐澤会長さんよろしく申し上げます。

唐澤議長

それでは次第に沿って進めさせていただきます。

(1) 千曲市における松くい虫防除対策について事務局より説明をお願いします。

小林係長

会議次第のつづりの最終ページをご覧ください。平成22年度松くい虫対策の経過まとめてあります。時系列にまとめてあります。10月1日までは第3回協議会において報告済みということで説明は省略させていただきます。従いまして中段より下段10月2日からの時系列について説明をさせていただきます。

10月2日信毎朝刊林業振興協議会の記事 お手元の資料1の1ページをご覧ください。事務局にて朗読いたします。

小松主査

(資料1 ページ1朗読)

小林係長

10月28日市に松くい虫空中散布後の症状調査集計結果報告書の提出お手元の資料1の2ページから5ページをご覧ください。事務局にて朗読いたします。

小松主査

(資料1 ページ2～5朗読)

小林係長

資料の4ページ5ページにはその時に集計した報告、5ページは配られた調査票です。

続きまして、11月2日理事者と語る会(女団連)において、松くい虫対策の質問が出されました。

資料は付いていませんが質問の内容は、本年度の実施内容と市民への情報伝達について聞かせてください。という松くい虫の質問です。

市の回答は協議会でお話している内容の通りですが、本年度の松くい虫の空中散布は、更埴地区45ha 戸倉地区35ha 上山田地区45haの合計125haを実施しました。6月15日16日が天候により順延となり17日18日に実施しました。順延になった関係でその広報については、ホームページ・有線放送・オフトーク等で周知しました。また、これらの伝達手法に加えて各学校・保育園・幼稚園・福祉施設・病院等にもお知らせしました。と回答しました。

続きまして11月25日市に電子メールにて空中散布中止について要望が寄せられました。この内容は23年1月1日 1月市報にて空中散布中止について提案回答について記事掲載ということで既に市報でご覧になっているかと思いますが資料1 9ページこちらの左側の市民から寄せられた提案とその回答を紹介しています。朗読します。

小松主査 (資料1 ページ9朗読)

小林係長 続きまして11月28日松くい虫被害材の活用事業のチップロード施工ですが、先程ビデオをご覧頂いておりますので説明は省略させていただきます。資料2の2ページから4ページに載せてあります。

小林係長 続いて11月29日に朝日新聞朝刊に松くい虫被害材活用チップロード施工の記事が載っています。こちらの方も時間の都合もありますしビデオの内容と重複しますので説明は省略させていただきます。

小林係長 続きまして12月9日信毎朝刊空中散布後の症状調査集計結果報告書の記事です。資料1 7ページ朗読いたします。

小松主査 (資料1 ページ7朗読)

小林係長 続きまして12月12日松くい虫被害材の活用事業の丸太ベンチづくりを行ないました。こちらも先程ビデオをご覧頂いておりますので説明は省略させていただきます。資料2の2ページから4ページに載せてあります。

小林係長 続きまして12月22日県が空中散布在り方について連絡会議を開催しました。

続いて12月23日信毎朝刊県が空中散布在り方について連絡会議開催の記事が載っています。資料1 8ページ朗読いたします

小松主査 (資料1 ページ8朗読)

小林係長 引き続きまして、平成23年に入ります。1月1日 1月市報にて松くい虫被害材利用の丸太ベンチの記事と先程説明した空中散布中止の要望の記事です。

こちらの方も併せて資料1の9ページにあります。
続きまして1月20日市に松くい虫空中散布の中止を求める要望書の提出がありました。こちらは資料1の10ページから12ページに載せてあります。朗読いたします。

小松主査 (資料1 ページ10朗読)

小林係長 1月21日信毎朝刊に空中散布中止を求める要望書提出の記事が掲載されています。こちらも朗読いたします。

小松主査 (資料1 ページ13朗読)

小林係長

12 ページですが、先程朗読はしませんでした。診断書も一緒に提出されました。専門用語で書かれていて先程朗読した症状のところにほとんど出ていますので、朗読は省略させていただきます。

今回は診断書も付いての中止要望が提出されました。

続きまして1月25日に更埴新聞松くい虫被害材活用チップロード施工の記事です。資料1 14ページに載せています。

それから、本日開催の林業振興協議会です。

以上が、本日までの経過です。

唐澤議長

ただいま、協議事項の(1)の今年度の経過と言うことで事務局のほうから資料1・2に渡りまして朗読して説明を受けました。

ここで、報告の中にもありましたが県の方におきまして新たな動きがありましたので、その現況がお話しできましたらよろしくお願ひします。

徳原委員

お世話様です。長野地方事務所林務課長の徳原です。県の動きと言うことで報告させていただきます。前回の協議会では、6月17日に関係団体から県への要望に対しまして、副知事のほうで専門的な検討会議を設けることを答えている。と報告させていただきました。その後の経過につきましては、先程信毎さんの12月23日の記事にあるとおりでございますが、若干詳細に付きまして経過報告させていただきます。

最初に、農薬空中散布に対します県の基本的な考え方でございますが、空中散布につきましては国等の実施基準を遵守しまして、人の活動と生活に影響する場所や時間を避けまして、生態系や健康に対する影響を充分検討したうえで、地域住民の了解を得られる最低限の範囲で万全の対策を講じて実施するよう市町村にお願ひし指導しています。

これらの考え方を必ず実行するために、より安全性が確保されるよう今後の空中散布の在り方について、専門家を交えた検討会議を設けて検討していくこととございます。

今後の検討会議の基本的な考え方は、今後の農薬の空中散布の在り方を検討するため、関係部が連携して農薬の空中散布連絡会議を設置して、昨年の平成22年12月22日に連絡会議を設置してあります。

短期的に濃密な検討をするために検討連絡会議のもとに実施方法が違う、農作物の防除と松くい虫の防除に分けて検討部会を設置します。おのこの部会において具体的かつ専門的な検討を進めることとすることで二つの部会を設置しました。

その一つに有人ヘリ松くい虫防除検討部会という松くい虫に関する検討部会が1月19日に非公開で開催されております。

その中で、外部の有識者、関係部所を交えて検討を行い、今後の松くい虫防除の在り方や長野県の防除実施基準の改定等について総合的な判断をしていく予定であります。

まず一つめとして、松くい虫防除による現状の把握と健康問題。

二つめとしまして、松くい虫防除の有効性と代替案。

三つめとしまして、今後の松くい虫防除の在り方。

部会ではこの三点を中心に検討をしていきます。新聞記事にありましたように、平成23年8月を目途に一定の方向を出す予定で県の専門部会・連絡会議のほうは取り組んでおります。

以上です。

唐澤議長

ありがとうございました。県のほうの検討委員会発足と当面の日程をお聞きしたわけですが、これにつきましては、当市で実施しようとする時期としましては、6月に例年散布していますから、県の一定の方向が8月に出ても間に合いません。本当はこれを待った上でやればいいのですが、時間が2ヶ月近くずれ、それを待っていると散布時期を逸してしまうことも在ります。一応県の動きはわかりました。

これは経過報告ですので質問は(2)のほうで進めていきます。

それでは(2)の平成23年度の松くい虫対策についての意見集約に入ります。

これは、あくまで採決はしません。各団体の代表者がこの委員として出てきていただいておりますので、代表としての立場を踏まえながら質問要望をお願いします。時間の都合もありますので、意見はまとめてお願いします。

委員さん全員にお話をお願いします。

決して採決するつもりはありませんので、今までの経過報告と今後の対策についてご意見をお願いします。

最初に、〇〇さんからお聞きしたいのですが、初めての出席ですので、最後のほうでお聞きしますので〇〇さんからお願いします。

〇〇委員

ちょっとまとまらない質問になるかと思いますが、私は2度目の協議会ですが、どうも不思議に思っていたことは、一連の報告の中で健康に関する報告ばかり取り上げられていますが、この松くい虫対策というものが何のために必要なのか、どこにも現れていないことが素人の私としては非常に不思議です。また、松の用材として価値が昔と違ってほとんど使われていない現状かと思えます。外面的に松くい・松枯れ対策の必要性はなんだとなんとなくわかりますが、要約して松くい虫対策はこういう問題があってやっているんだという説得がどこにも無いので、どなたかに回答してもらおうとわかりやすいなと思えます。

〇〇委員

私は〇〇の立場で参加させていただいておりますが、難しい問題で環境問題・健康問題がありますが、自然を守るのは環境問題。しかし、災害問題もございませう。その辺の調整が総合的にどうすればいいのか、市のほうにはこの問題の連絡が無くて、アンケートも団体でなく、市も立ち会った上で出来ればよかったと思えます。

〇〇委員

上田市と坂城町は既に中止をされているという報告はありますが、それに伴って上田・坂城では被害がどうなっているのか。現状の情報を教えていただければと思います。

それからもう一つアンケートを実施されたということですが、私たちの地域では、どういう団体が、どんな流れで実施され回答を得られたのか、はっきりわかりませんので、その辺のところもアンケートを実施された団体の方がおられましたら報告をいただければと思います。

唐澤議長

上田坂城の状況を詳しく知りたいということと、アンケートの実施については実施団体のやり方を整理して欲しいということですね。

〇〇委員

私のほうは、冠着山一帯の木を育てている立場から申し上げますと、自分たちが山に入って一番感じることは、松の子供は生えていますが、大体3mくらいになると11月から12月に切られてしまう。正月の松飾で芯を持っていかれてしまう。今は6mの梯子を持っていかないと枝でも取れません。小さい松は殆んどありません。

〇〇の立場からすれば、環境に配慮しながら松枯れ対策をやっていただきたいと要望します。

唐澤議長

今の意見は、環境で年末における松飾で松が切られてしまうということですが、空中散布の意見はどうですか。

〇〇委員

空中散布はお願いしたいと思います。今も枯れているところはありますが、まだ、雪が深くて山に入っていません。4月頃には山に入って確認してみます。

〇〇委員

アンケートのとり方についてですが、若干疑問が残ると思います。最初に配ってないこと、配っている人がわからないことなど含めて、疑問に思います。もう一つは、松を枯らさないことイコール山を守ることに つながっているか、災害との関係もあるし、その辺の整理が必要と感じます。

〇〇委員

私も〇〇さんの意見と同じで、今日、倉科地区を見てもらいましたが松の木が何に役にたっているか。材木にしたら殆んど値打ちはありませんが、今日見てもらった保安林、あれは山崩れを防ぐ為の治山です。あの松の木がなくなったら、いくら堤防なり土留めを作っても防げません。もっと沢山の土砂なり石なりが落ちてきます。それを守ってくれている治山です。松くい虫の対策で空中防除が、どうこうって言うのは、やはりベストではないけど今はこれしか方法がない。ベストではないけどベターなんだ。

たとえば、一本ずつ消毒していけば防げるかもしれないが、莫大なお金がかかります。市で二千万とっていましたが何百億になるかもしれない。

それらを考えたら空中防除で効果が出ていると思います。これがやっぱりベターなやり方だと私は思います。

〇〇委員

松の利用についてのお話も出ていますが、後ほど議長さんのほうでまとめていただけたと思いますので、私どもの赤松の林ですが、天然に生えている赤松の林、これは一番は防災的な意味合いで大きな働きをしていると考えています。民有林とかにありました人工林につきましては、角材とか板材とか建築材としての用途を目的として、育てていると思います。今日見ていただいた岩山、急傾斜地に生えている松は簡単に切って新しいものに更新する訳には行きません。先程の要望書の中にもありましたが、小さい松が下から生えてきているからいいじゃないか、と言っています。

それも大事ですが、大きくなって、崩壊しやすいところで根を張って生きている松、それが結果的に国土の保全をしている働きをしている訳です。従いまして、天然林の松につきましては、非常に重要な働きをしています。また、文化的には日本人の古くから暮らし文化に松は深く係わっていますし、景観ですが特に長野県は観光という大きな資源にしていますから、そういった景観的意味からも、やせ地の松は守らなければいけないと考えています。

そういった中で松くい虫の被害は膨大になり激害な被害を及ぼしますと、激害地の松くい対策は膨大な予算がかかるようになります。そしてその予算が継続的に投入できるのか。という問題もありますから、私どもは極力松くい虫の被害が全体の1%以内の微害の状況で推移させたい。激害地には絶対に誘導したくない。微害の状態で何とか維持をしていきたいということで、被害木を伐倒駆除や焼却とかチップにしたり、松を切って違う木に換えられる状況のところは変えて樹種転換を図っていく。総合的な対策を取り組む中で1%の微害に抑える。唯一のコストを抑えた、急傾斜地等の人の手の入り難い所の対応が空中散布、予防散布かなと考えています。現状の中では予防散布、空中散布も含めた総合的な対策を講じて微害地の状況を維持していきたいという狙いです。

是非、空中散布につきましては地域住民の方のご理解。松林に対する松の保全に対するご理解を、こういった協議会等でも訴えていかなければならないと考えています。

唐澤議長

今の話の中では、総合的ということではありますが、確かに本来ならば所有者が伐倒駆除をするのがいいのですが、今需要が少ないし場所も悪からそのままにしておくことが、今の所有者の殆んどの考え方だと思います。経験の中で対策をする、公共的な経費を投じて伐倒、或いは空散をいただいている。〇〇の立場としては、また違った意味もあるというお話でした。

〇〇委員

私は〇〇の代表として、協議会に出席している〇〇ともうします。

私は本日視察で回った倉科で生まれ育ちました。この協議会の委員になるまでは、子供の頃に山に入ってカブト虫を取るとか、探検したり、山の思い出は沢山ありますが、山への関心は殆んどありませんでした。

この委員会に出席させていただき、皆さんのいろいろな意見や会議資料を参考に、本来の山の機能や現状について考え自分なりに勉強をさせていただきました。何度も会議で出ていますが、この松くい虫対策の空中散布につきましても、現在、市で行なっている対応がベターではあるがベストではないまさしくその通りだと思えます。

理由としまして、私も小学生になる2人の子供がいますが、薬害などの安全面を考えると、出来れば農薬散布は行なわないほうが良いと思えます。ですが、視察で見た現状から、やむを得ないと思えました。それは空中散布エリア付近に住む住民は、農薬による薬害よりも、むしろ日常生活の安全安心の確保から松林を守る必要があると考えるからです。その地域で日常生活を送っている人にしてみれば、通常地震や台風災害、最近の世界的異常気象によるゲリラ豪雨などによる土石流などで、いつ自分の地区がテレビで報道されているような災害現場なるか不安な生活を送っていると思えます。今までの資料から千曲市の面積の57%が森林とのことですが、過去の資料から人や財産を守ってくれた実績が山の機能にあり、松林もその一部を担っていると思えます。現在の松林を最低限守り子供たち後世に引き継ぐ必要があると思うからです。最近、山の手入れもされず、山が荒れてきている原因には、われわれの山に対する無関心さが大きく影響しているとも思えます。

現在市で行なっている対応は、人が容易に入れる山は伐倒駆除で急峻で人が容易に入れない重要な箇所のみ空中散布とのこと、費用対効果も考慮すると、やむを得ないことかと思えます。

私なりに市にお願いしたいことをまとめてみました。

一つめとして、この松くい虫対策の必要性や山の大切さを充分市民に広報をしていただきたい。

二つめといたしまして安全飛行はもちろんですが、薬剤の空中濃度測定などの安全管理を引続き行い公表をしていただきたい。

三つめといたしまして、この空中散布に対する対応について国・県の情報収集を絶えず行いこの協議会に情報提供をお願いしたいと思います。

この3点でございます。

一方で、明るい未来を守る会・学校給食を考える会の皆さんが空中散布中止要望書やアンケート結果を提出しておりますが、その気持ちも充分理解は出来ます。ただし薬剤の薬害ばかりにとらわれすぎていて、一番大切なその地域に住む住民の考え方、住民の事が考えられているのだろうか。隣の市町村がやめたからではなく、千曲市の山の特性や山の機能や松林の重要性を理解しているのだろうか、アンケート記入用紙も一方的過ぎて中立的なアンケートではないのではないか、空中散布をやめた後の対応をどう考えているのだろうかと思うところもあります。薬害も確かに心配です

が散布当日は外に出歩くのは控えたり、マスクをしたり、住んでいるところが直接関係無くても行政ばかりに頼るのではなく住民として出来ること市民それぞれの立場で助け合い協力して行く必要もあると思います。

今の私たちには、将来の為に松林を守らなければならない義務があります。

残念ながら、現在空中散布に変わる代替案はありません。

以上のべた理由から、現段階では私は、空中散布はやむを得ない事と思います。

唐澤議長

いろんな面からご意見を頂きました。

〇〇委員

〇〇の〇〇です。こういう重大な検討をする場ということですが認識が甘くて準備が出来ていません。

私は生まれも育ちも東京で街の中で育ってきました。長野県に来て子供たちと勉強する中で、山の問題や林業の問題を勉強してきた訳ですが、今回、なぜ松を保全しなければいけないのか、ここに来て初めて知りました。松が非常に痩せた土地に育ち、岩肌や山を守ることなど初めて知りました。私が初めて知ったということ、そんなに勉強をしていない訳ではありませんが、そこら辺の知識不足がこの問題にあると感じています。

空中散布はどうかということでは始まっていますが、なぜ松を守らなければいけないのか、という事理解不足があると思います。松を含めて山を守らなければいけないかという林業の問題、農業もそうですが、国土を守っているという視点が抜けています。都会の構造は本当にそうです。実際地域に暮らしていると、農業をしたり林業をしたりしていることが、いかに国土保全をしているか、ということにつながっていると思います。

この発信が非常に足りない、そこにこの問題の根本にあると思います。そういう中で倉科地区の子供たちが育成会を通じて活動していることが本当に大事なことだと思います。あの中で、松は大事にしなきゃいけない、なんで役にたっているか、行ってみればわかる。山がどうなっているのか近づけばわかる。そこら辺の足りなさが、こういう問題を起こしていると思います。

この〇〇さん地元の方で、食の関係で熱心な活動をされていて、子供たちの命を守りたいという気持ちは良くわかります。ただ、このアンケートについてはちょっと偏りすぎていると思います。100人に配って28人の回答でも関心のある人がいてくれば、率は高くなると思いますし、フェアなやり方では無いと思います。それを基に主張されるのは行き過ぎだと感じています。

あと、ADHDと農業の問題について書かれています。長野県において障害を持つ子供が就学児童の10%にも及ぶと言っています。長野県は農業を撒いているからそのせいだと印象を持ちますけれども、それは間違っています。通常難しいお子さんがそれだけいますと言うことで、それは増えて

いるのか、増えていないのかということは別問題ですが、10%ぐらい増えているのは日本全国、世界中どこでも、当たり前なことなので、これは農業のせいかどうかはわかりません。長野県の田舎がこうだっていう主張は行き過ぎだと思っています。いろんな意味で感情的な議論とか、特にマスコミは心配していることを強く報道しますので、バランス感覚のとれた議論をしなくてはいけないと思います。そういう意味では千曲市として広報をしていく必要があると思います。そのときにはフェアなアンケートをとるべきではないかと思っています。それで中身を見たりして、子供たちの教育はもちろんですし、専門ではありませんが、こういうふうに進めても良いのではないかと思います。

唐澤議長

〇〇さんからは、国土の保全は森林が守っているということが、一般的に知られていないというお話でした。経済成長がされて水道の蛇口をひねると、ただ水が出る、これはどこから出来て出ているか、どういう環境で、水が蛇口を通して出てくるのかがわからない。緑豊かで自然であれば水が出るのかなと思うと決してそうではなくて、保水、治山と一定の森林整備が必要です。日頃おきないような集中豪雨が2、3日降ると土石流が起きて石と一緒にすごい力で落ちてくるから、下にある集落を襲う。やはり山もある程度、整備をしておかないと、ちょっとしたことでも大きな災害になると思います。

〇〇委員

私、一人ですつと松くい虫防除に反対している声を上げてきました。何回かこの会を催してきました、皆さんの声が一方的に賛成ではなくて、いくら健康被害の面についてもご意見が出るようになってきた事にうれしく思っています。

私は何も知識はないのですが、やはり上田市が健康被害にあって、市長が独断というか英断というか、委員会は全員賛成だったそうです。ところが母袋市長さんが独断というか英断というか一方的に決めたそうです。それで坂城は被害者が出たということで、詳しいことはわかりませんが、被害者が出たという事でやめたと、私はお聞きしました。

上田市の〇〇さんという方は保育園の園長さんなのか、保護者の会長さんなのか、保育園の関係でアンケート調査をしたり、自分のお子さんも被害にあったりして反対運動され、その学習会にも私は、アンケート調査をやられた方のお声がかりで行ってまいりました。そこで少しお話をお聞きしました。やはり小さいお子さんをもっているお母さん方は、こういう被害がでたことで、すごく神経質にもなりますし、出来ることでしたらやめて欲しいということで、佐久総合病院の先生も同意して、先程ありました診断書の出ている群馬県の青山医院さん、その先生が農業の関係の權威の先生でいらして、その先生にも協力いただいて反対運動をやっていたのですが、子供たちの明るい未来を守る会の〇〇さんも今回アンケート調査を確かにされて100人中28人の回答で15名の被害者が出たという

回答で、アンケート的には信用できるというか、何というか、完全なものではありません。しかし、こうやって被害が出たということで、空中防除はベストではないベターであるという考えでいらっしゃると思いますが、何とかベストな考え方を全国で考えて行って欲しいというのが私の意見です。この小さい千曲市だけでなく長野県それから全国、農林関係の皆さんで考えて行っていただきたいと思います。

〇〇委員

私は〇〇さんと同じく〇〇という会から二人代表でこの会に参加させていただきました。いろいろ細かい点ですが、〇〇さんが出された要望書についてスズメやツバメが本当に空中散布で犠牲になるのでしょうか。知識とか勉強不足でわからない点です。それからアンケートですが100人に出したという点でも、数が少ないし偏りすぎていると思います。4ページの結果を見ますと戸倉・更埴の方に回答が集中していて地域的にも偏っていますし、また、空中散布に疑問を持っている反对方が多く回答を出されたような気がします。

先程から何人もの方が言ってましたが、市レベルのアンケート、きちんとしたバランスの良いアンケートだったら信用もおけますが、あまり信頼性のあるアンケートとはいえないと思います。

それから、私たちが協議をしています一番楽な方法は中止だと思えます。でも、現時点で空中防除を続けるにも勇気が要りますし、中止することにも勇気は要ると思えます。でも、空中防除はベストではないけど現時点ではいろいろな方のお話を聞いたり、現地を視察したりしますと、必要かと思えます。これからは県でも意見を集約する会議を開くそうなので、そちらの情報もどんどん取り入れて、国レベルの空中散布を中止するのか続けていくのか、それらの情報も取り入れて行きながら私たちの千曲市としてベターな方法で、この空中防除を続けるのか良く考えて行きたいと思えます。でも私の立場として〇〇の立場としては、環境保全とか景観とか考えますとやはり必要かなと思えます。

付け加えですが、〇〇さんがいっていましたがADHAですが、これは薬害だけの影響ではないと〇〇さんにも知って欲しいなと思えます。

唐澤議長

最後に新しく〇〇に参りました〇〇委員さんお願いします。

〇〇委員

私は1月5日付けで〇〇に参りました〇〇と申します。よろしく申し上げます。

それぞれの委員さんの方から立派なご意見いただきまして、伐倒駆除の関係は前任長野市で携わっていましたが、空中散布につきましては素人で千曲市坂城町でやっていることぐらいの情報しかありません。〇〇の意見としては外れるかと思えますが、私の信念は議題からは外れるかも知れませんが、〇〇、山主の山を守ると言うことが〇〇の使命として第一に考えています。〇〇さんの山をいかに大事にしていくか、一番はそれぞれが自

分の持山を分かって手入れをする。そうすることによって被害木を分かるし、自分で伐倒もする。もし出来なければ技術のある人に委託をして処理をすることも可能です。今現在の中では、そういう山主さんはどの地域を見ても非常にいません。一番それが残念でありませんが、今低迷する高齢化などいろいろいわれている中でベスト、ベターという言葉も出てきましたが、何が一番地域住民この千曲市、さしては北信、長野県全体にとっていいのか非常に難しい問題で、これが一番いいという考えは無いのですが難しいことは言いませんけれども、山主の山を守る、治山、治水、環境問題いろいろありますけれども、なぜ山が必要であるかという教育から含めまして、健康的な問題がこちらに書かれていますが、それも当然大事です。安全も大事です。しかしながら山の木を守るという観点からすれば、空中散布も極端な話をすれば場所を限定するとか、地域を狭めるとか、風速は非常に難しい問題ですが、地上にいるのと上にいるのは風速が違うと思いますので飛散量など難しい問題ですが、私の今の段階ではそれぞれの委員さんからお話がありましたけれども、空中散布と伐倒処理を今まで通り、今までとおりのいうか、今のお話した中で両建てで進めて行けばいいと思います。

唐澤議長

最後になりますが、〇〇さんのほうからお願いします。

〇〇委員

〇〇から来ています〇〇です。こちらの〇〇さんは山の本当のプロなんです。〇〇さんのご意見を私は是非お聞きしたいと思います。私の発言が終わった後に〇〇さんのご意見もお聞かせいただきたいと思いますが、いかがなものでしょうか（拍手）

それでは、私の考えていることをお話しさせていただきます。

私も、〇〇さんも〇〇さんも〇〇なんですが、私は環境問題ということから考えるならやるべきでない、空中散布は地域の生物を全部、全滅させる方法は人間的にはやることではないことだと思えます。それから今の議論の中で一番大切なことは、いかにして山を守るかということです。山を守ることと子供達の健康を守ることを回避させて考えることも間違っていると思えます。山を守ることと子供の健康を守ることは実は大きな目でみると一緒なのに、子供をとるのか、山をとるのか、みたいな話は考え方として違うと思えます。そして考え方として山をまず守りたい、だけど守りたいのは松だけではなく、山全体いろいろなものを守っていかなくてはいけない。われわれ今まで、社会をつくってこる中でいろいろ間違えをしてきたと思えます。私も66歳でこの人生で大きな間違えをいろいろしてきたと思えます。それが何かと言うと、一つの目的の為にいろんなものを犠牲にしてきた。目がそこに向かなかつた。そういう問題が私はすごく熟知たるものがあります。経済の問題をいろいろ考えるために、子供のことを全部ないがしろにしてきたことをすごく考えています。その問題とこの問題とを総合的に私は考えなければいけないと思っています。山の問題は松

の問題だけではない。他の虫の問題も大切だし、山や動物や虫や植物などの問題がすごく大切だと思っています。環境市民会議ではレッドデータブックを3年間かけて作りました。その内容は主に植物が多いのですが本当は虫だってレッドデータブックで大きな問題があります。虫の問題だって大切にしないといけない。それも見据えたうえで全体としてどういう風にしようか考えなくてはならない。それも私はものの見方を変えるべきだと思うのは、今年のこの会議は今年の空中散布をやるかどうかの話です。ところが、今年また来年やるかどうかの議論をしていたら山は何十年もかかるものですから、それでそういう議論を毎回毎回重ねていたのでは、うまくいかない。これから千曲市の山をどういうふうに造っていかうか、松枯れ問題をどういうふうに考えていかうか、そういうことをもっと長い目で、山を見るならば長い目で、広い様々な事に目配りをして考えていかなければいけないというのが、私の考え方です。今のままで行くなれば、毎年毎年、空中散布をやるということです。松を守るために。けどそうでなくて、今、林業関係者はいろいろなことを考えています。研究もしています。それはなにかというと松枯れに強い松作りをいろいろやられています。ここで前回、松枯れに強い松、遺伝子を研究していると話しましたが、松枯れに強い松がどこで生育されているかと言うと、まだまだ西のほうです。西のほうで出来た松枯れに強い遺伝子を長野市に持ってきていいのかという問題、今、地方では遺伝子の拡散がいろいろ問題になっています。埼玉県で育てたケヤキは大量に東北地方に植えられているが苗木もどんどん移動しています。これはまずいんじゃないかと、様々なところで問題になっています。やはり、われわれがここでやらなければいけない、小さいところで色々やるのではなく、もっと大きく考えるために山、林業のことを考え、松枯れに強い遺伝子を開発してくれているのか、それを広げようじゃないか、基本的にはこれしかないと思います。松枯れに強い遺伝子の開発することしかないと思います。そのために、私たち協議会が何らかの意見をいろんなところに働きかけることが、意味のある協議会になると思います。

それから、私も〇〇の一員としてこちらに参加して森林を色々考えました。この問題で様々な松枯れ問題がすごく研究されているのが鳥取県です。鳥取県の事情について調べてきました。今から2年前の調査したものがあります。これは、1300人ほどの被害が高校生を中心にして出た、という調査があります。インターネットで見るとすぐに見れますので是非皆さん見てみてください。鳥取、松枯れ、で検索してみてください。

その中から出てきます。この中でどういうことがあるかと言うと、つぶさに読んでみますと、調査した場所では、被害の出た場所は国の環境基準10毎キログラム/立法メートルの濃度をはるかに下回った1/200の濃度で被害が1300人ほど出ています。それについて、オキシダント大気汚染のためではないかとか、様々なことが検討されています。検討委員はほとんどが大学の先生とお医者さんです。14名ほどの委員で検討しています。

その中で結論は3つあります。検討会は全体としては8回専門家会議が開かれています。農薬空中散布の原因である可能性を否定できない。つまりこんなに低い1/200濃度でも被害が出た。ということについても専門家はこういう結論を出しています。会議としては3つの結論があります。農薬空中散布が原因である。それから、原因を特定できない。これら3つの結論を出している。そして、その時の空中散布の濃度が国の基準の1/200の濃度で出てきた症状について専門家の意見は、そうかもしれない。違うかもしれない。その症状は、〇〇さんの出された症状と違う。スミチオン、スミパインMCというものをおそらく散布したと思います。MCと言うのはマイクロカプセルという意味で、マイクロカプセルで薬を小さい粒にしてやるから、早く落ちる。そういうことで空中散布して早く落としたい。いつまでも漂っていないようにしたい。と言うのがMCの特徴です。

症状の問題で、私が信じられるかと思ったのは、ここでの調査のほとんどが目のかゆみとか痛みを訴えている。スミチオンMCの症状の被害の特徴は目に来る。これはインターネットでスミチオンとやれば選べますが、これがどういう人間的に害があるかという、一番激しいのが目の痛み。ところが、この1000数百人の人たちの症状は目の痛みが最初に出ている。時間が限られている。ところが濃度があまりに低すぎる。だからこれが原因かな、濃度を下げてもピタットあってしまう。ですから環境基準を今のままでいいのかが問題で、いろんな角度で見ていく必要があると思います。前回、千曲市でも濃度測手をするならば、ただ点で濃度測定するのではなくて中心からずーっと距離を測って濃度測定しないと、本当の濃度測定がわからないのではと言いました。やはり真剣に色々な調査をして確実なところで話をしていきたいと思います。市にもお願いしたい。今回やることになったとしても、そういう調査、アンケート、濃度の問題もありましたが、そういう化学的データのもとで議論をしていかないと、いつまでもたっても同じことになってしまうと思います。

〇〇委員

大変学術的なお話をお聞きしました。その内容についていけない部分もありますが、いずれにしても集約してまとめる前に、私のほうで一言お話させていただき、集約させていただきます。

私自体は、山を愛する人間で、山の仕事も高校の頃から、地拵え、炭焼き、伐倒、植栽からいろんな仕事をやってきました。私は赤松は高校で四国に行ったとき、岡山、広島とかの山はこちらの山と違って、自然林の密集している山で、赤松はこうやって赤くなるのかなと、その頃思いました。ここにきて最近、長野県の北信地域にもまんえんしてきました。岡山とかの近畿に比べれば少ないですけども、あれで山での収入は出るのかと思いました。山は人のためにあるのではなくて、生活を維持していくために生産性を上げるために、薪炭を採ったりして生活をしてきた。これをほおっておけば、治山・治水にも影響が出てくると思います。さいわいに、この辺は保育もまだまだ年間通して整備できる地域でありますから、木を保

育していく。歴史を見れば災害が起きている。氾濫が起きて何かには出てくるだろうと思います。近いのは岡谷の災害です。身近なところで起きたときに初めて山の手入れが問題になってくると思います。いづれにしても山は赤松対策だけでなく、普段から山の適正な整備が必要であると思います。需要が少なくても山を育てておかなければ、先程の治山、治水から大被害が起きるということになります。今、水資源を中国が日本に来て山を買っています。三重県のほうでは水源まで欲しいといっています。そうなったときに金のある資産のある国から日本の水や山を買い取られたときに地元に住んでいる人たちの水はどうするのかという、重大な問題もある。ペットボトルの水を買っていればお風呂が沸くのか、となります。ですから地域の山はみんなで知恵を出し合って、人間に被害の無いような方策で、〇〇さんが言われたようなことを、長い目で広く考えていかなければいけないと思います。

唐澤議長

(2) 意見の集約としましては、子供をとるのか、山をとるのか、健康面からするとベターではないけれども森林を守る面から、要するに保水とか災害とかそういう面からいくと、散布もやむを得ないとなります。実施にあたっては、市民の森林の持つ役割などを、もう少しPRして欲しい。

散布するに当たっては、その地域だけでなく市全体にPRする中で市民にご協力を頂くこと。

アンケートにつきましても2～3名の委員さんからもありましたが、偏った、自分たちの意見だけでなく、市なら市が関与したアンケート調査が望ましいのではないかな。

これらも踏まえて23年度の事業等を行政のほうで進めていただければと思いますが。

よろしいでしょうか。

結論としまして賛成ということではなくて、これらを踏まえて行政のほうで判断を頂きたいと思います。審議会として、しめたいと思います。

(拍手)

では、協議事項の内容につきまして私のほうは、これで終わりますので議長を降ろさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

(拍手)

平林課長

委員の皆様方には、慎重審議を頂きまして大変ありがとうございました。協議事項ではありませんが、事務局のほうから(3)森林整備事業の報告を申し上げたいと思いますのでよろしくお願い致します。

小林係長

私のほうから、松くい虫対策以外の森林整備事業の報告と言うことで、報告をさせていただきます。

次第にも別記してありますが、先程からBUS等で見学しました治山事業

と元気づくり支援金で行なった、チップ、丸太ベンチ。その他森林づくり体験としてクリスマスリースづくりについては、お手元の資料2にありますのでご確認ください。

続きまして、先程の議論の中にありました山のPRが不足しているというご指摘もありましたが、市の方としまして資料2の5ページですが、市民の投稿が信毎さんにありました。心痛む熊の射殺の記事の中で、千曲市で行なっている、どんぐり大作戦の取り組みを毎年行なっていますが、こちらについてご理解を頂き、激励のお言葉が載せられています。市では毎年2~3園づつ保育園を回って、どんぐりを子供たちが山で拾ってきてもらい、土等は私どもで用意して植えてもらいます。植えて2~3年経ちましたら協働の森事業で、春の植樹祭のときに植樹をしています。このような活動を通して、もっともっと山の必要性などを今後も訴えて行きたいと思えます。

次の資料で平成22年度の有害鳥獣駆除結果です。資料2の6ページ~8ページに載っています。今は狩猟期間で猟友会の皆さん山に入っていますが、こちらのほうは6月19日から11月14日に山の荒廃化が進んでいるなかで、鳥、イノシシ、ハクビシン、熊などの農作物被害の苦情によって駆除したものが出ています。年々、猟友会員の数が減っているなかで、大変な苦勞をお願いしています。市のほうも山の整備と併せて対応もしています。ちなみに8ページですが許可頭数の目標に対してイノシシは96頭ということで、かなりの数を取りましたが、それ以上に出没しているということが分かると思います。めずらしいところでは、ニホンザルが1匹です。こちらは松代周辺までサルの群れが来ていると聞いています。今後はニホンザルの出没が心配になります。

続きまして報告ですが、平成22年度長野県ふるさとの森林づくり賞の長野県森林づくり県民税活用の部において千曲市のNPO法人千曲の森が受賞しました。こちらの記事は10ページ最終ページになります。こういった活動を通して忘れかけていた山の復活をしていくものです。こちらの朗読をします。

小松主査

(資料2 ページ10朗読)
(拍手)

小林係長

当協議会長が受賞されましたのでご報告させていただきました。
(3)の森林整備事業の報告につきましては以上です。

平林課長

いろいろありがとうございました。
6のその他でございますが、このような協議会を随時開催して行きたいと思えますので、よろしくお願ひします。
そして、ご意見ご要望がありましたら事務局のほうへ申し出ていただきたいと思います。

最後に閉会の言葉を部長より申し上げます。

唐澤会長

協議会の会長としまして、協議会が先程の幸野さんの話にありましたように、市全体の山をどうするかという広い見地からも目を向けて協議をしていただくようお願いしたいと要望しておきたいと思います。

(拍手)

6.閉 会

柳澤部長

経済部長の柳澤と申します。御礼の言葉を申し上げます。

本日は、活発な議論をいただき真にありがとうございました。6月と本日2回にわたり現地調査をしていただき市の林業施策と課題などにつきまして説明させていただく中で、ご意見等をいただいたわけでございます。話の中にありましたように昔に比べて山に関心が低くなっていることが、一番の根本ではないか。またそれをPR、市民の方に知っていただく施策も併せてやっていかなければいけないことを痛感いたしました。松くい虫対策につきましては、伐倒駆除、空中散布、本年度からアカゲラの巣箱づくり、山の植樹祭等、いろいろな施策のなかで進めております。それと山は今年やって来年ということではなくて、長い目でみてやっていかなくてはならないと痛感させられました。委員の皆様には忌憚のないご意見を頂きまして大変ありがとうございました。先程、会長からありました千曲市の大半の6割を占めます山を今後どうしていくのか、その辺の議論は今後も引続きしていきたいと思っております。また、子供たちを対象にした学習会等も計画していきたいと思っております。その時には皆様方の参加やご協力をお願いしまして進めていきたいと思っております。

本日は、本年度最後の協議会ですが、いろいろな面でご意見をいただき、今後の林業行政に充分いかして行きたいと思っております。

御礼の言葉にかえさせていただきます。

本日は大変ありがとうございました。

(拍手)

(終了16:39)